ONE SHOT ONE KILL《一撃必殺》

（ワンショット ワンキル）

どこから来た誰なのか?—沖縄の海兵隊

影山あさ子（プロデューサー）

沖縄から、海兵隊が、イラクやアフガニスタンへ送られる。ファルージャ攻撃にも、遠征軍2200人が、沖縄から出撃した。イラク人7000人が犠牲になり、50人の海兵隊員が戦死した。戦死者が出ると、沖縄の海兵隊基地の星条旗は半旗になる。

沖縄で見かける海兵隊員たちは、とても若い。高校を卒業したばかりだろうか。凄惨な戦場とは、あまりに不釣合いな幼顔をしている。

彼らはどこから来た、誰なのだろう。なぜ、ここにいるのだろう。彼らの幼い顔を見つめながら、アメリカへ行こうと決めた。

パリスアイランド（サウスカロライナ州）のブートキャンプ（新兵訓練所）には、毎週、500人の若者たちがやってくる。彼らは、特別な若者ではない。「大学に進学したい」「良い仕事に就きたい」「社会に貢献したい」と軍隊に志願するごく普通の、そして大多数は貧しいアメリカの若者たちだ。

深夜にバスで到着するや否や、教官たちに怒鳴り散らされながら12週間の訓練に突入してゆく。

深夜に到着するには訳がある。疲れさせるためだ。到着後、48時間眠ることが許されない。「疲労と衝撃が、民間人から兵士への変容を容易にする」と教官たちは言う。

「返事は！」「Yes,Sir!」「声が小さい！」「Yes,Sir!」「叫べ！」「Yes,Sir!!!」深夜の基地に若者たちの悲鳴と絶叫が響く。

最初に教えられることは、「口を閉じよ、疑問を発するな」ということ。髪を剃られ、制服に着替え、「私」という言葉を禁じられ、個性の一切と思考を放棄させられる。そして、卒業まで、何万回も同じ事を繰り返す反復訓練。

一言で言えば、その教育は、①洗脳と、②肉体の記憶づくり、そして③非人間化である。命令には、疑問を持たず直ちに従う人格形成と、考えなくても命令どおりに動く肉体作り、そしてせん滅すべき相手を人間とは思わない感覚養成だ。アラブ人なら、Sand Monkey（砂漠の猿）、Rag Head（ぼろ布頭）、日本人ならJap（ジャップ）。いずれも、人間以外の、鼠のような人間以下のものという意味だ。

素手で殴り殺し、銃剣で刺し殺し、ライフルで撃ち殺す。沖縄に送られてくるのは、無意識でも人を殺せる技術を身につけた若者たちなのだ。この訓練の根底には「人は人を殺せるようにはできていない」という認識がある。海兵隊の任務は、白兵戦。相手の顔が見える距離で、人を殺すということだ。だから、訓練が必要なのだ。

ベトナムへ行った元海兵隊員のアレン・ネルソンは「人を一人殺すたび、自分の中の何かが死んでゆく」という。彼自身、死ぬまで戦場のPTSDに苦しんだが、人を殺したら、元の自分には戻れない。戻す方法は、ない。

7月16日、安保法制が衆議院で可決され、日米の軍事的一体化、戦争準備は、いよいよ仕上げの段階に入った。

米海兵隊ブートキャンプ。「戦場」という地獄への入口が、ここだ。

——影山あさ子（プロデューサー）

ONE SHOT ONE KILL ■日本／2011年／カラー／ビデオ／

企画・製作■森の映画社
プロデューサー■影山あさ子
監　督■藤本幸久
撮　影■栗原良介
録　音■久保田幸雄
インタビュアー■影山あさ子
編　集■藤本幸久・栗原良介
音　楽■川端潤
音楽制作■エアプレーンレーベル
コーディネーター■福原顕志・加藤鈴子
字　幕■影山あさ子
協　力■LaraCushing
録音スタジオ■協映
配　給■影山あさ子事務所
著　作■森の映画社

◆11/30（土）11時～12/1（日）17時　札幌市教育文化会館　ギャラリー『弾圧展（仮）』開催！

詳細 what's HP http://whats-everything.jimdo.com　出展希望お問い合わせください→whats.everything@gmail.com